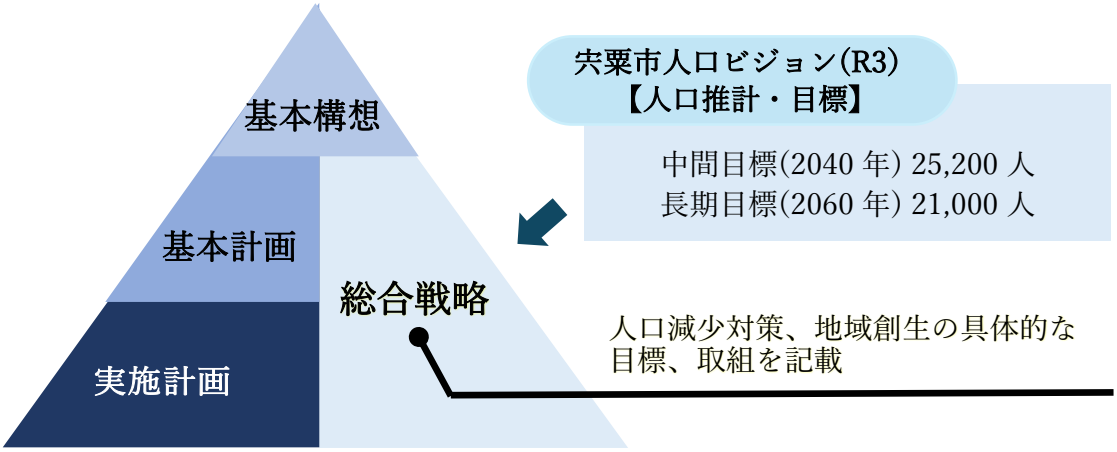
[参考資料]

第２次宍粟市地域創生総合戦略について

1　第２次宍粟市地域創生総合戦略の位置付け



年度 / 計画	令和４年度 2022年度	令和５年度 2023年度	令和６年度 2024年度	令和７年度 2025年度	令和８年度 2026年度
総合計画	第２次宍粟市総合計画（後期基本計画）				
総合戦略	第２次宍粟市地域創生総合戦略				

2　第２次宍粟市地域創生総合戦略の体系

【住む】
集落・地域の活性化と移住・定住の促進
いつまでも住み続けられ生活しやすい環境づくりと移住希望者をスムーズに受け入れるための仕組みづくり。

【働く】
雇用の創出と就職支援
産業の活性化と異業種連携による雇用創出に向けた積極的な産業振興策や女性や高齢者等の就業促進による地域経済の活性化。市内又は通勤圏内での若者の就職支援の取組。

【産み育てる】
少子化対策
女性が自分らしく活躍することができる社会の構築。結婚や子育て等への不安・問題の解消、子どもや子育て世帯が安心して暮らせる地域実現に向けた取組。

【まちの魅力】
選ばれるまちづくり
森林の魅力を中心とした様々な体験を通じてイメージや認知度を向上。連携中枢都市圏等との連携による広域的な魅力発信。訪問、滞在など交流人口、関係人口の増加。

【住む】
集落・地域の活性化と移住・定住の促進

目標指標：　転出超過数
目　標：　245 人(2025 年)
実　績：　316 人(2025 年)

1　【住む】第２次戦略期間における主な取組と実績

（1）主な取組内容

参画と協働の推進において、「宍粟市参画と協働のまちづくり指針」(R4 策定)をもとに、千種地区において市内初となる地域運営組織「ちくさええとこ協議会」が設立されるなど、多様化する地域課題の解決に向けた伴走型の支援をスタートさせた。また、地域おこし協力隊の活動に係るコーディネーターの継続的な配置や、地域おこし協力隊ＯＢ・ＯＧによる移住支援団体の活動が本格化したことで、受入団体との連携や隊員の活動支援が強化され、協力隊の受入人数、任期終了後の定住率は目標値を上回る結果となった。生活圏の拠点づくりの推進においては、2024 年に市民局、生涯学習、子育て支援センター等の機能を持った地域交流拠点となる市民協働センター「はがてらす」を整備した。公共交通の利用促進に関しては、地域が主体となった自家用有償旅客運送「三方繁盛つれてってカー」と「ちくさええとこバス」の本格運行がスタートした。また、利便性を向上させ利用者を確保するため、キャッシュレス決済の導入に取り組んでいる。

移住・定住の促進においては、定住コーディネーターの配置などにより定住相談窓口を充実させ、移住前相談から移住後のフォローまでの支援体制を強化したことで、空き家活用の相談件数、空き家バンク制度による登録物件に対する成約率はともに上昇した。

資源循環型社会の構築では、日常生活の中で省エネ行動等を行うことでポイントが貰える、市民向け「森林環境ポイント」事業を開始するとともに、家庭で生ごみを処理することができるごみ処理容器「キエーロ」の普及活動を行い環境保全・地球温暖化対策の意識向上を図った。

上記の取組をはじめとして各分野で地域活性化の取組を推進してきたものの、2025 年の転出超過数は目標を超える 316 人となった。

（2）【住む】数値目標

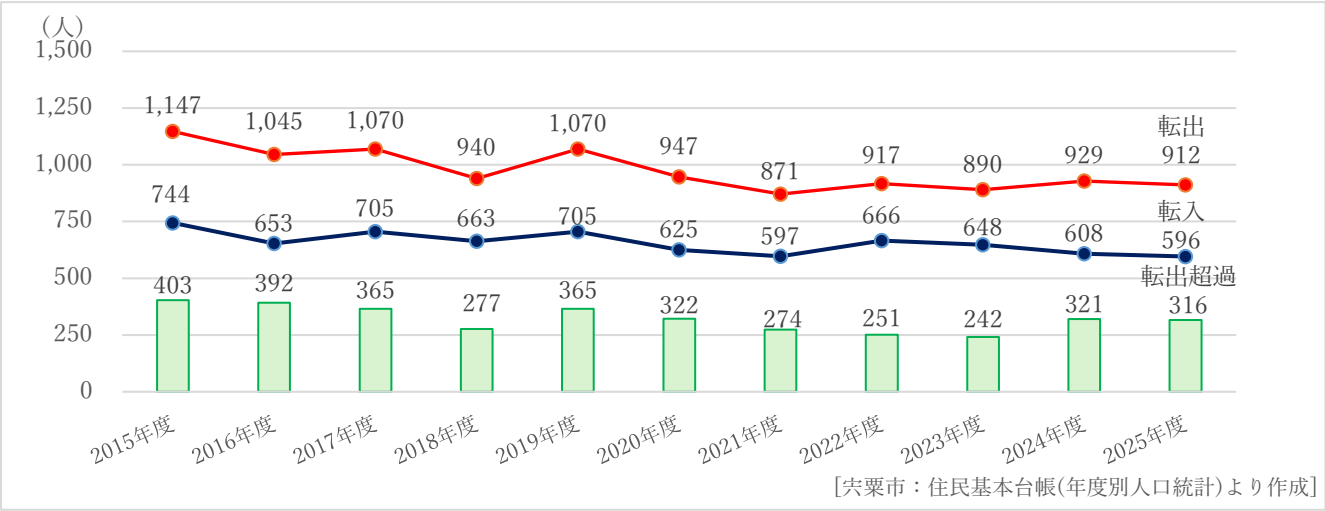
実績・目標	実績					目標
年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2025 年
転出超過数	274 人	251 人	242 人	321 人	316 人	245 人

（3）【住む】関連する主なまちづくり指標

基本施策・個別施策	指標名	2020 年 (現状値)	2022 年	2023 年	2024 年	2026 年 (目標値)
参画と協働・男女共同参画の推進 ① 自主自立のまちづくり	地区コミュニティ支援員の受入団体数	2 団体	2 団体	2 団体	2 団体	5 団体
	地域おこし協力隊員の受入人数【累計】	12 人	17 人	20 人	20 人	18 人
生活圏の拠点づくりの推進 ① 生活拠点づくり ② 公共交通ネットワークの充実	路面バス利用者数【延べ】	286,163 人 (2019 年)	226,031 人	230,916 人	230,249 人	254,700 人
移住・定住促進の充実 ① 移住・定住の推進 ② 空き家活用の推進	地域おこし協力隊定住率	57.1%	70.0%	80.0%	80.0%	60.0%
	空き家利活用などの相談件数	45 件	60 件	81 件	102 件	107 件
	空き家バンク制度による登録物件に対する成約率（5 年間平均）	33.6%	38.6%	39.4%	39.3%	現状値 以上

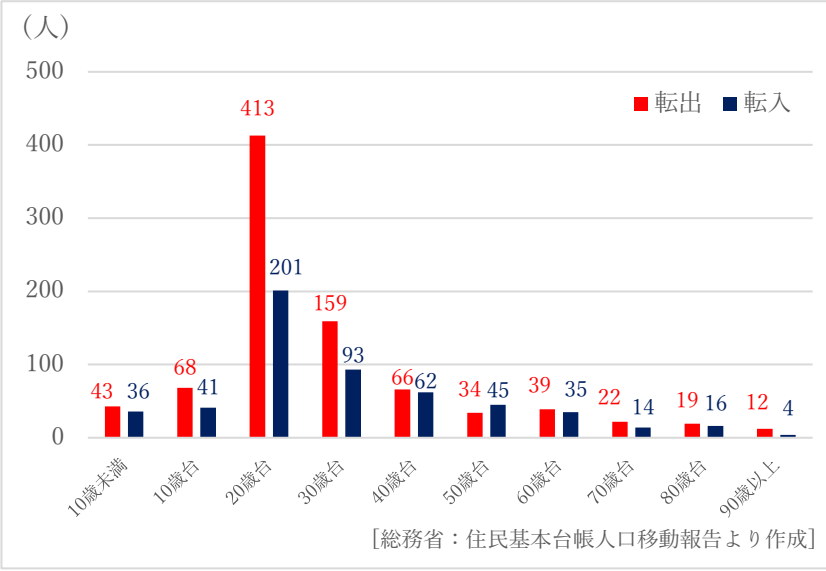
2 【住む】転入転出者の推移等

（1）転入・転出者数と転出超過数の推移

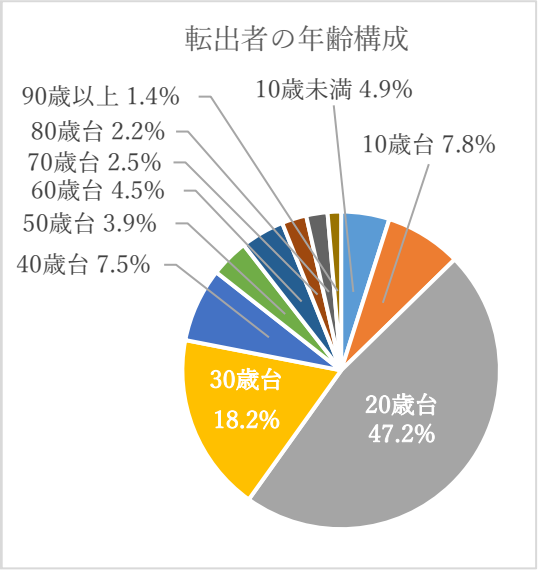


［宍粟市：住民基本台帳(年度別人口統計)より作成］

（2）年代別転入・転出者数（2024 年）



［総務省：住民基本台帳人口移動報告より作成］



（3）宍粟市の転出超過の状況（2024 年）

自治体	転入者数	転出者数	転出超過
姫路市	88 人	195 人	-107 人
たつの市	38 人	91 人	-53 人
神戸市	42 人	90 人	-48 人
県内【その他】	135 人	157 人	-22 人
大阪府	90 人	109 人	-19 人
京都	10 人	22 人	-12 人
東京	15 人	28 人	-13 人
その他【県外】	129 人	183 人	-54 人
合　計	547 人	875 人	-328 人

［総務省：住民基本台帳人口移動報告より作成］

【働く】
集落・地域の活性化と移住・定住の促進

目標指標：就業率
目　標：56.9%（2025 年国勢調査）
現　状：57.8%（2020 年国勢調査）

1　【働く】第２次戦略期間における主な取組と実績

（1）第２次戦略期間の主な取組内容

林業の振興においては、森林経営計画を策定した森林での搬出間伐の実施や、条件不利地の森林での切捨間伐の費用支援など適切な森林の整備を進め、人工林整備率は順調に上昇した。また、森林の適切な管理による CO２吸収量の取引を行う「市有林 J-クレジット創出事業」の取組を開始し、森林整備の促進と地球温暖化防止の啓発を図った。

農業の振興では、水稲生産において新たに「みかたの舞」をブランド化し、付加価値の向上等による販売促進を図るとともに、農業改良普及センターとの連携による新規就農相談を実施し、新たな認定農業者が増えるなど、農業の担い手確保を進めた。ハード面においても、老朽化などによる生産性の低下、二次災害のリスクが高い農業用水利施設の診断を行い、機能保全計画を策定するなど、安全性の確保と生産性を向上させる取組を開始した。農業人材不足の解決につながる「特定地域づくり事業協同組合」の設立に向けた取組を進めている。

商工業の振興では、総合的な仕事の相談窓口「わくわ～くステーション」の運営において、介護サービス事業所等との連携による介護人材の確保を図ったほか、生活困窮者の自立相談支援も含めた包括的な支援事業を実施するとともに、「ひきこもり」等による孤立・孤独状態の予防に向けた就労による社会参加への支援を行い、幅広い分野での雇用の創出と就職支援を図った。また、宍粟市人財力フル活用プラットフォーム推進会議を主体とした合同企業説明会の開催やビジネスマッチングフェアへの参画、実践型インターンシップの実施を通して、市内企業の魅力発信や人材育成に努めた。引き続き、企業の人材確保につなげるとともに、地域内就労の機会を創出し、地域産業の強化、地域経済の活性化を図っていく。

（2）【働く】数値目標

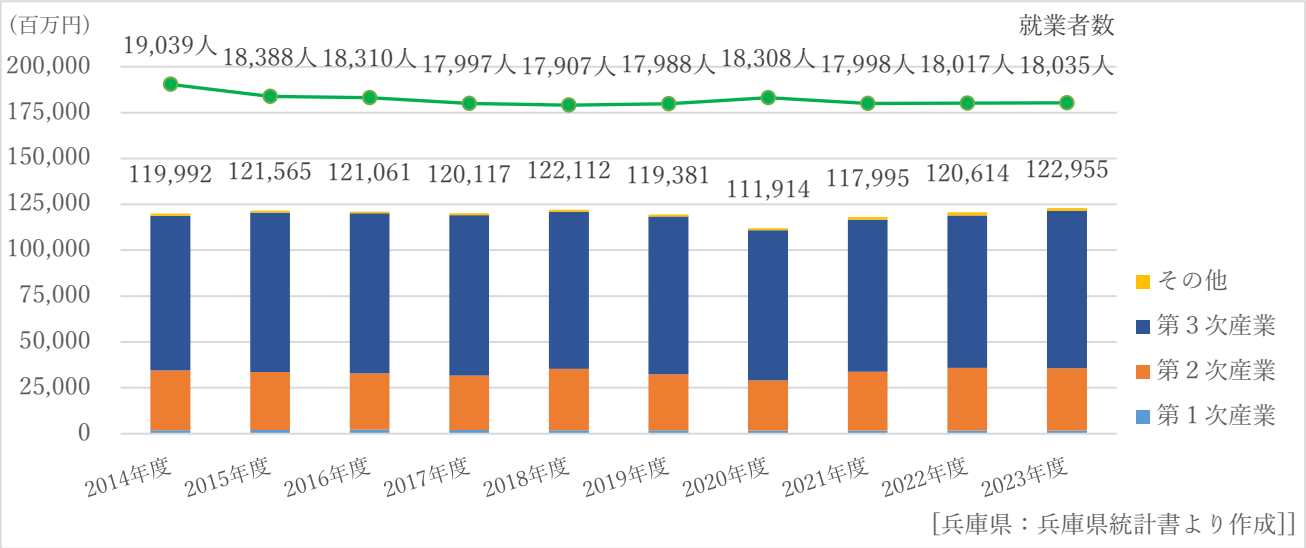
実績・目標	実績				目標
年度	2010 年	2015 年	2020 年	2025 年	2025 年
就業率	58.68%	56.9%	57.8%	－	56.9%

（3）【働く】関連する主なまちづくり指標

基本施策・個別施策	指標名	2020 年（現状値）	2022 年	2023 年	2024 年	2026 年（目標値）
林業の振興 ①宍粟材流通の拡大促進 ②担い手の確保・育成 ③林業生産基盤の整備	林業事業体数	23 組織	33 組織	26 組織	27 組織	28 組織
	人工林整備率（間伐事業）	33.8%	39.7%	40.9%	43.0%	44.6%
農業の振興 ①生産の振興と流通の促進 ②担い手の確保・育成 ③農業生産基盤の整備	認定農業者数	32 人	33 人	31 人	38 人	44 人
商工業の振興 ①中小企業の経営安定化 ②企業誘致の推進と起業家支援 ③６次産業化・産業間連携の促進 ④就職支援の充実	総合的な仕事の相談窓口を通じた就職者数	181 人	201 人	225 人	198 人	192 人

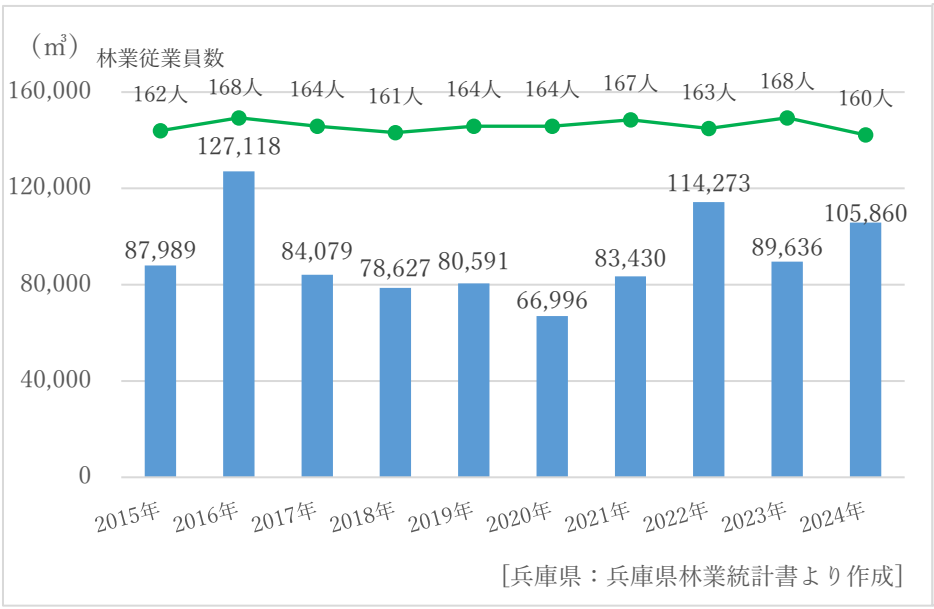
2 【働く】各種統計の推移

（1）市内総生産（名目）と就業者数の推移

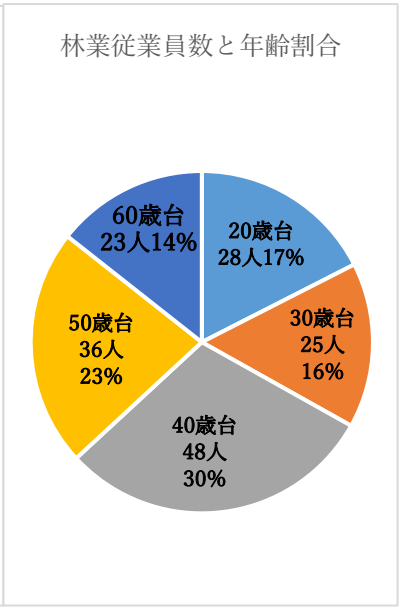


[兵庫県：兵庫県統計書より作成]]

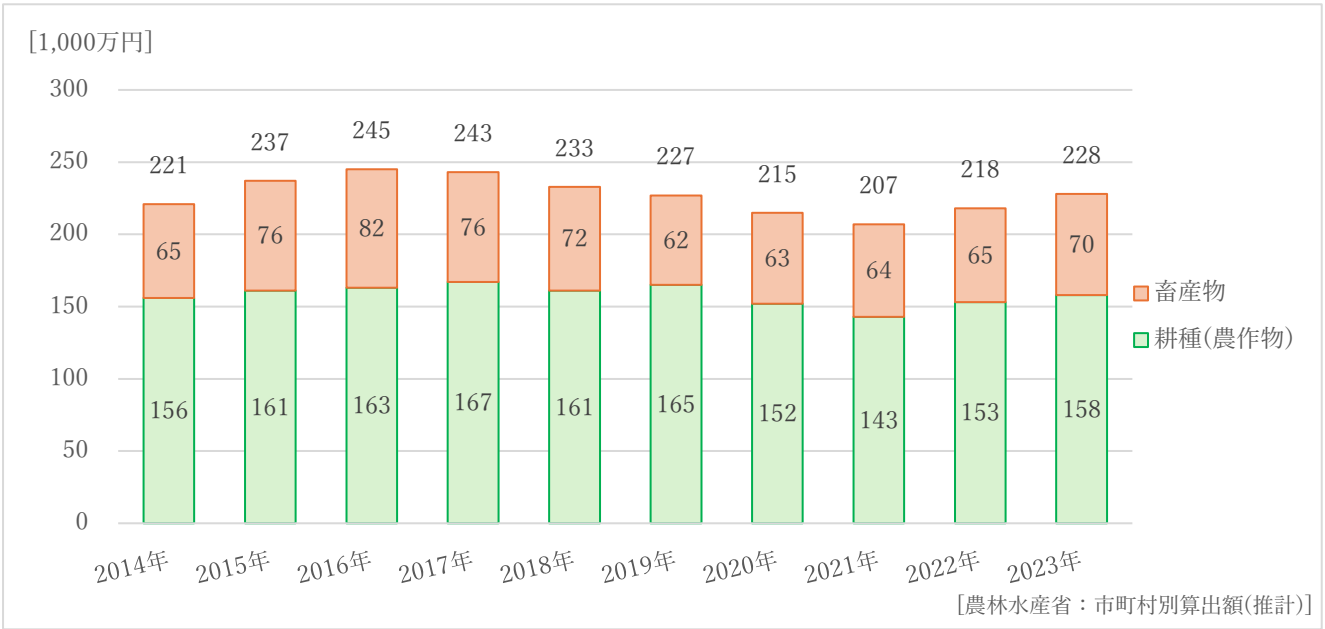
（2）林業：素材生産量と林業従事者数



[兵庫県：兵庫県林業統計書より作成]



（3）農業算出額



[農林水産省：市町村別算出額(推計)]

【産み育てる】
少子化対策

目標指標：出生数（年間）
目　標：　165 人(2025 年)
実　績：　107 人(2025 年)

1　【産み育てる】第２次戦略期間における主な取組と実績

（1）第２次戦略期間の主な取組内容

子育て支援の充実に向けては、不妊治療の支援や出会い応援事業、各種健診事業等を実施するとともに、子育て世帯の孤立が不安視される中で、妊娠から出産、子育て期まで切れ目のない伴走型支援体制の強化を図るため、子育て支援課（こども家庭支援センター）の新設し、子育てに係る窓口の集約を図った。また千種子育て支援センターに木製玩具を導入し、全ての子育て支援センターで子どもたちの健やかな成長と豊かな感性を育む木育環境の整備が整った。

就学前教育の充実においては、民設民営で設置する認定こども園の整備支援により、安心安全な託児環境の整備に取り組むとともに、公立の幼稚園・認定こども園で、保護者と職員との情報共有や登降園の管理を行うためのＩＣＴソフト導入により、保護者の利便性向上と業務の効率化を進め、教育保育環境の充実を図った。

学校教育の充実では、小中学校に新たに不登校児童生徒支援員を配置し、基礎的な学習の支援をはじめ、社会的自立へ向けた支援を行うため校内サポートルームの機能強化を図った。また、英語検定の検定料補助制度により、英語学習に意欲的に取り組める環境を整え、中学生の英語力向上を図るとともに、食材費が高騰する中でも学校給食における保護者の経済的負担の軽減を図りながら、地元食材を使用した安心安全で質の高い給食を提供した。

数値目標に掲げる出生数については、2025 年は 107 人と依然として厳しい状況が続いている。今後は、子育て支援体制をより強化していくとともに、学校教育環境の充実に向けて、地域との連携も深めながら地域全体で子育て・教育をサポートしていく体制づくりに取り組む。また、子育て支援のさらなる充実に向け、新たに多胎妊婦健康診査費助成、低所得の妊婦に対する初回産科受診料助成を創設し、経済的負担の軽減を図っていく。また、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた取組を進める。

（2）【産み育てる】数値目標

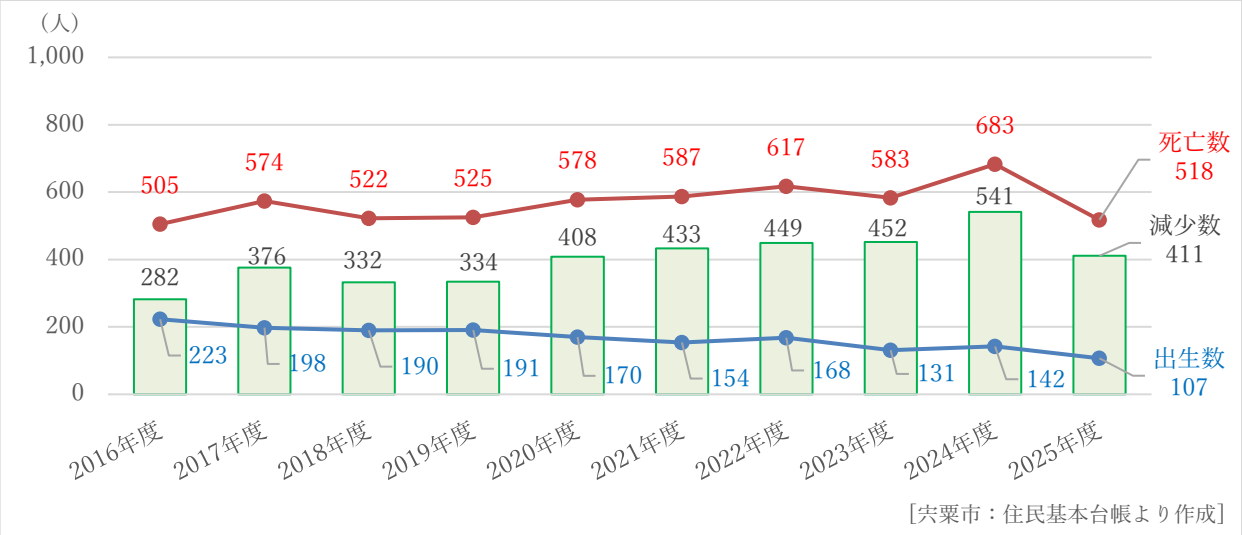
実績・目標	実績					目標
年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2025 年
出生数	154 人	179 人	127 人	142 人	107 人	165 人

（3）【産み育てる】関連する主なまちづくり指標

基本施策・個別施策	指標名	2020 年（現状値）	2022 年	2023 年	2024 年	2026 年（目標値）
子育て支援の充実 ①子育て支援の充実 ②地域や社会で子育てを支える体制づくり ③保育ニーズへの対応	この地域で子育てをしたいと思う親の割合	96.7%	96.%5	97.0%	97.3%	現状値より増加
	子育て支援センター利用組数【延べ】	499 組 (2019 年)	447 組	493 組	471 組	603 組
就学前教育の充実 ①幼児教育・保育の充実	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携事業数	114 件	210 件	262 件	282 件	216 件
学校教育の充実 ①生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）の育成	国語及び算数（数学）の授業の内容がよく分かるという児童生徒の割合	85.8% (2019 年)	80.4%	84.6%	87.4%	現状値を維持

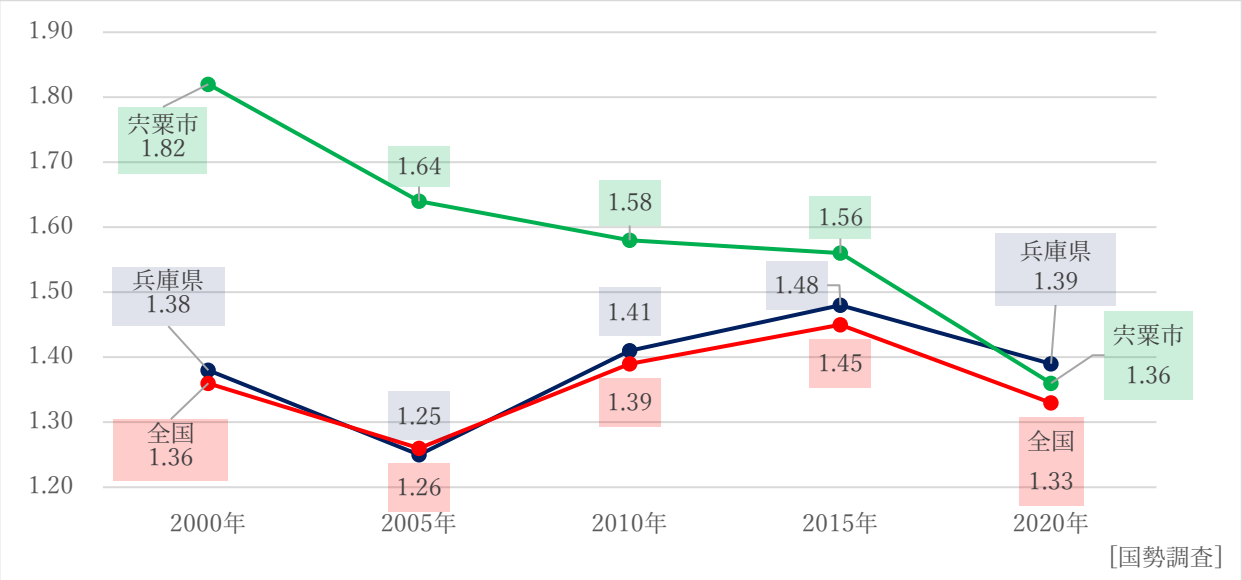
2 【産み育てる】各種統計の推移

（1）自然増減の推移（出生・死亡数）



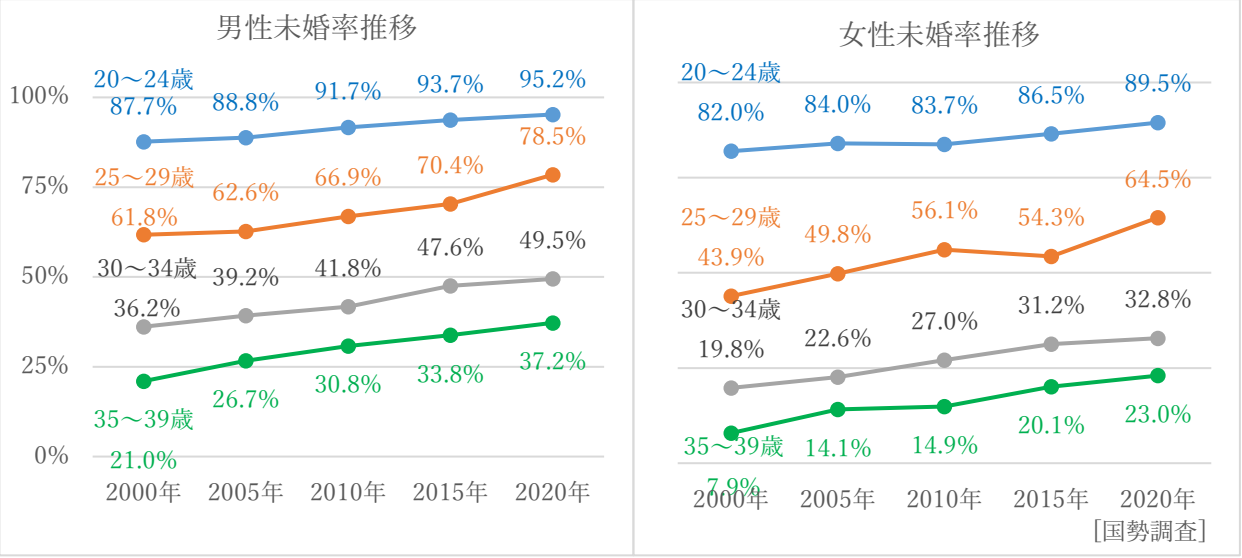
［宍粟市：住民基本台帳より作成］

（2）合計特殊出生率の推移



［国勢調査］

（3）未婚率の推移



［国勢調査］

【まちの魅力】
選ばれるまちづくり

目標指標：観光入込客数
目　標：116.5 万人(2026 年)
実　績： 88.0 万人(2025 年)

1 【まちの魅力】第２次戦略期間における主な取組と実績

（1）第２次戦略期間の主な取組内容

観光の振興においては、大阪・関西万博にあわせ、赤西渓谷・音水湖・最上山もみじ山・原不動滝・ちくさ高原スキー場など市内の豊かな森林資源を生かしたアクティビティを疑似体験できるＶＲ動画を制作し、観光プロモーションの新たなツール整備を進めた。また、音水湖・氷ノ山周辺をステージとした環境スポーツイベント「ＳＥＡ　ＴＯ　ＳＵＭＭＩＴ」を開催し、市内観光施設等の魅力向上による交流人口の増加を図った。

市民の郷土愛の醸成を目的として、令和７年度に宍粟市制 20 周年という大きな節目を迎えるにあたり、受け継がれてきた伝統や文化、風習を市民と共有し、明るい未来への展望と郷土愛を育んでほしいとの想いを、次の世代に紡いだ市歌「ここがふるさと」の制作を行った。また、「日本酒発祥の地・発酵のふるさと“しそう”」をめざし、宍粟市発酵のまちづくり推進協議会を中心とした「しそう発酵フェア」や発酵料理教室の開催や、各種イベントでの甘酒「にわの椛（はな）」のＰＲに取り組むとともに、民間企業の営業ノウハウを活用した宍粟市営業部の活動を継続して実施し、市の知名度向上、積極的な誘客を図ったが、森林セラピー体験者数については、いずれも実績が伸び悩んでおり厳しい数値になっている。

数値目標に掲げる観光入込客数については、2021 年度と 2025 年度の比較では約 4.5 万人増加しているものの、依然として集客力に課題が残っている。観光入込客数が増加した要因の一つは、冬季の適度な降雪によるスキー場の集客の増加であるが、その他観光施設については昨年度と大きく集客数は変わっておらず、積極的なイベント開催により集客が増加した道の駅みなみ波賀を除き、特に北部地域での集客が減少している傾向にある。今後は、市内観光施設が連携し、北部地域への人流を呼び込む取組が必要となっている。

（2）【まちの魅力】数値目標

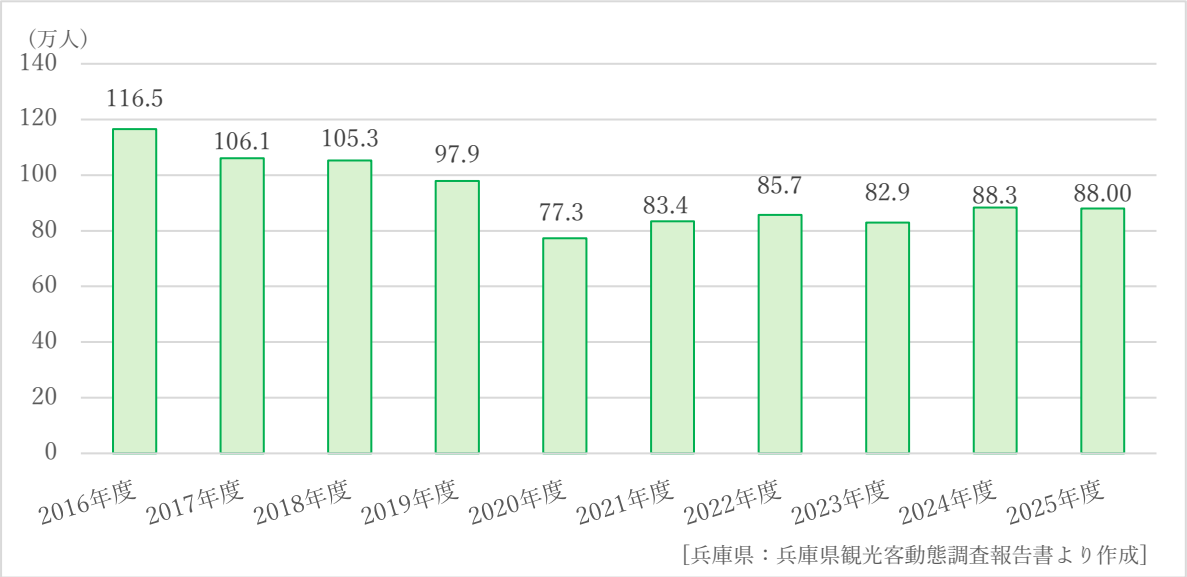
実績・目標	実績					目標
年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2025 年
観光入込客数	83.4 万人	85.7 万人	82.9 万人	88.3 万人	88.0 万人	116.5 万人

（3）【まちの魅力】関連する主なまちづくり指標

基本施策・個別施策	指標名	2020 年 (現状値)	2022 年	2023 年	2024 年	2026 年 (目標値)
観光の振興 ①観光資源の有効活用 ②体験型ツーリズムの推進 ③観光客受入体制の充実 ④魅力の発信の強化	観光入込客数【延べ】	97.9 万人 (2021 年)	85.7 万人	82.9 万人	88.3 万人	116.5 万人
	道の駅利用者数【延べ】	42.2 万人 (2021 年)	33.0 万人	30.0 万人	29.7 万人	44.1 万人
	森林セラピー体験者数【延べ】	597 人 (2021 年)	650 人	600 人	613 人	3,000 人

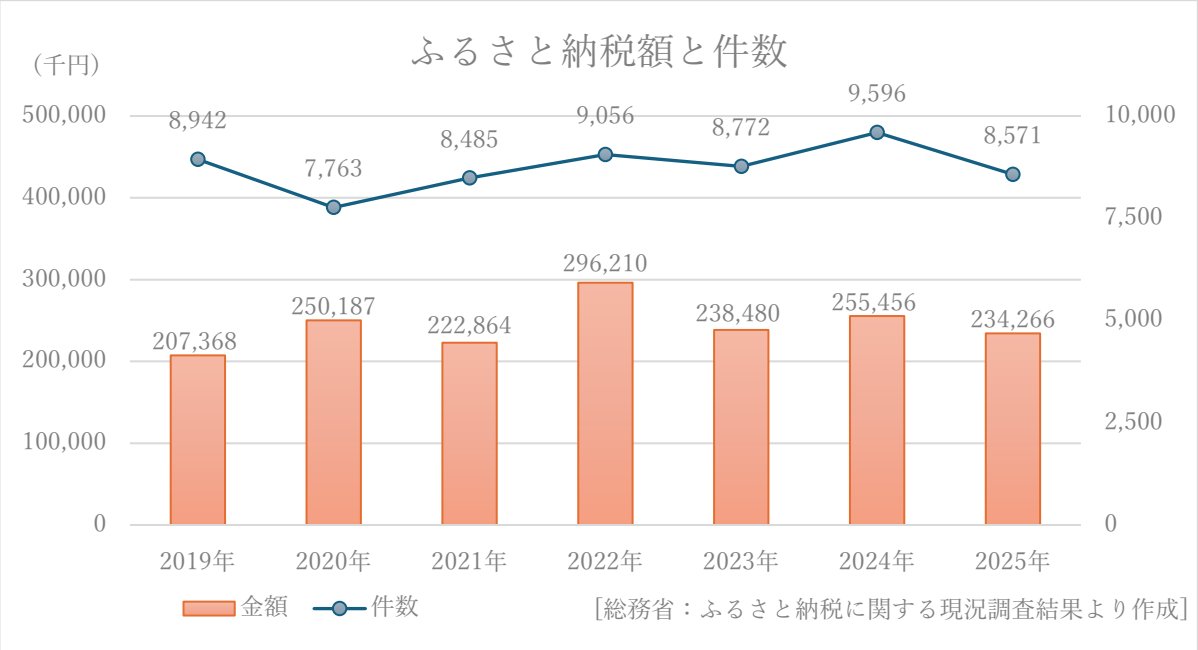
2 【まちの魅力】第２次戦略期間における主な取組と実績

（１）観光入込客数の推移



[兵庫県：兵庫県観光客動態調査報告書より作成]

（２）ふるさと納税額と件数の推移

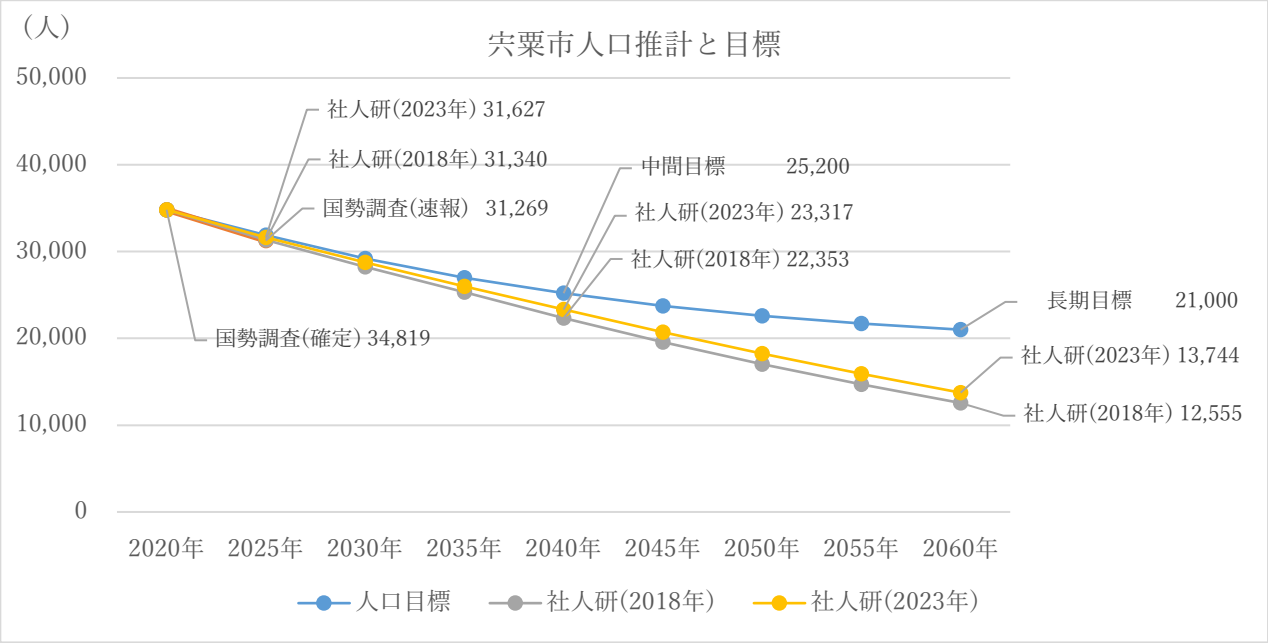


[総務省：ふるさと納税に関する現況調査結果より作成]

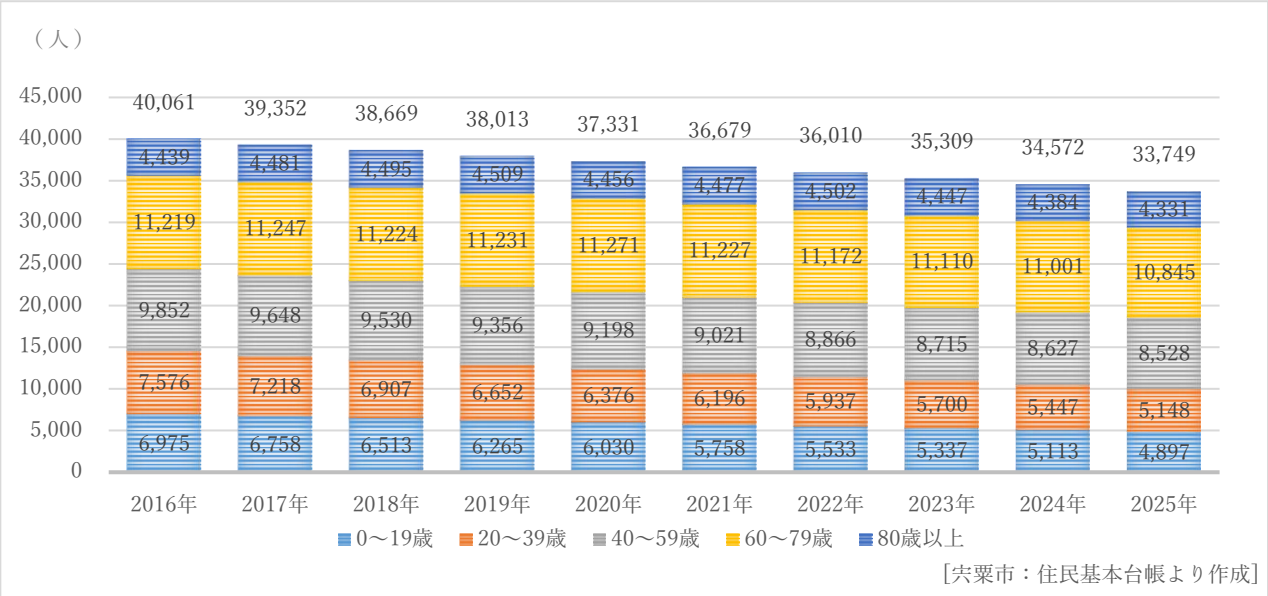
宍粟市人口ビジョンの目標と社人研推計

（1）人口目標と人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の国勢調査結果に基づく地域別将来推計人口（社人研）の宍粟市の 2018 年推計値と 2023 年推計値の比較では改善傾向が見られる結果となっていますが、2025 年の国勢調査(速報値)は 31,269 人といずれの推計値を下回る結果となっています。



（2）年代別人口の推移



［宍粟市：住民基本台帳より作成］